

## 第9 住民参加の地区別津波避難計画（津波避難マップ）の作成

第7において豊橋市における各地区の津波避難の基本方針を示しましたが、津波避難行動指針をより実行力のあるものとするためには、その地域の情報を最も把握している住民の意見を取り入れた地区別津波避難計画（以下『津波避難マップ』という）を作成していくことが重要です。

本章では住民が主体となって作成する津波避難マップの作成及び作成後の継続的な活動の手順を示します。

### 1 津波避難マップ作成のためのワークショップの実施

#### (1) 概要

津波避難マップは様々な視点をもって作成しなければなりません。最も重要なのは避難を実際に行う住民の目線でマップを作成することです。そのためには住民が中心となってマップを作成していく必要がありますが、津波の浸水想定域やどのように安全な避難先へ避難すればよいかなど、専門的な知識も必要になるため、市の防災担当職員、消防職員・消防団、学識経験者等との意見交換が必要です。また地域の学校や民間企業、港湾・漁業関係者、ボランティアなどを含めるなど、可能な限り多様なメンバーでのワークショップを通じて地域に根差した津波避難マップを作成します。

#### (2) 構成員

- ・地域住民
  - ・市の防災担当職員、消防職員
  - ・消防団、学識経験者
  - ・地域の学校、民間企業、港湾・漁業関係者、ボランティア等
- ※必ずしもすべての構成員が必要なわけではありません

#### (3) 基本的なワークショップの流れ

##### ① 学習会の実施

住民が自分の住む地域の特徴や危険性を理解するための学習会等を実施します。

##### ② まち歩きの実施

実際にまち歩きを実施し、市のハザードマップを参考にして、地震や津波などの災害が発生したときに住み慣れた町がどのようになってしまうか考えます。

##### ③ 地区別避難マップ（案）の作成

まち歩きや訓練で発見・確認できたことを共有し、具体的な避難の計画を考え、津波避難マップ（案）を作成します。

## 2 津波避難訓練の実施

作成した津波避難マップ（案）を基に、津波避難訓練を実施します。訓練を実施したのちに課題や問題点を洗い出します。

## 3 津波避難マップの修正

津波避難訓練の検証結果を基に津波避難マップ（案）の修正を行います。

## 4 津波避難マップの普及・啓発

津波避難マップをより実行力のあるものとするためには、地域の住民全体で避難マップを理解・共有し、避難行動を実践していくことが重要です。そのため、地域での集会、防災訓練の際や回覧等により周知する等、継続的に普及・啓発活動を実施します。

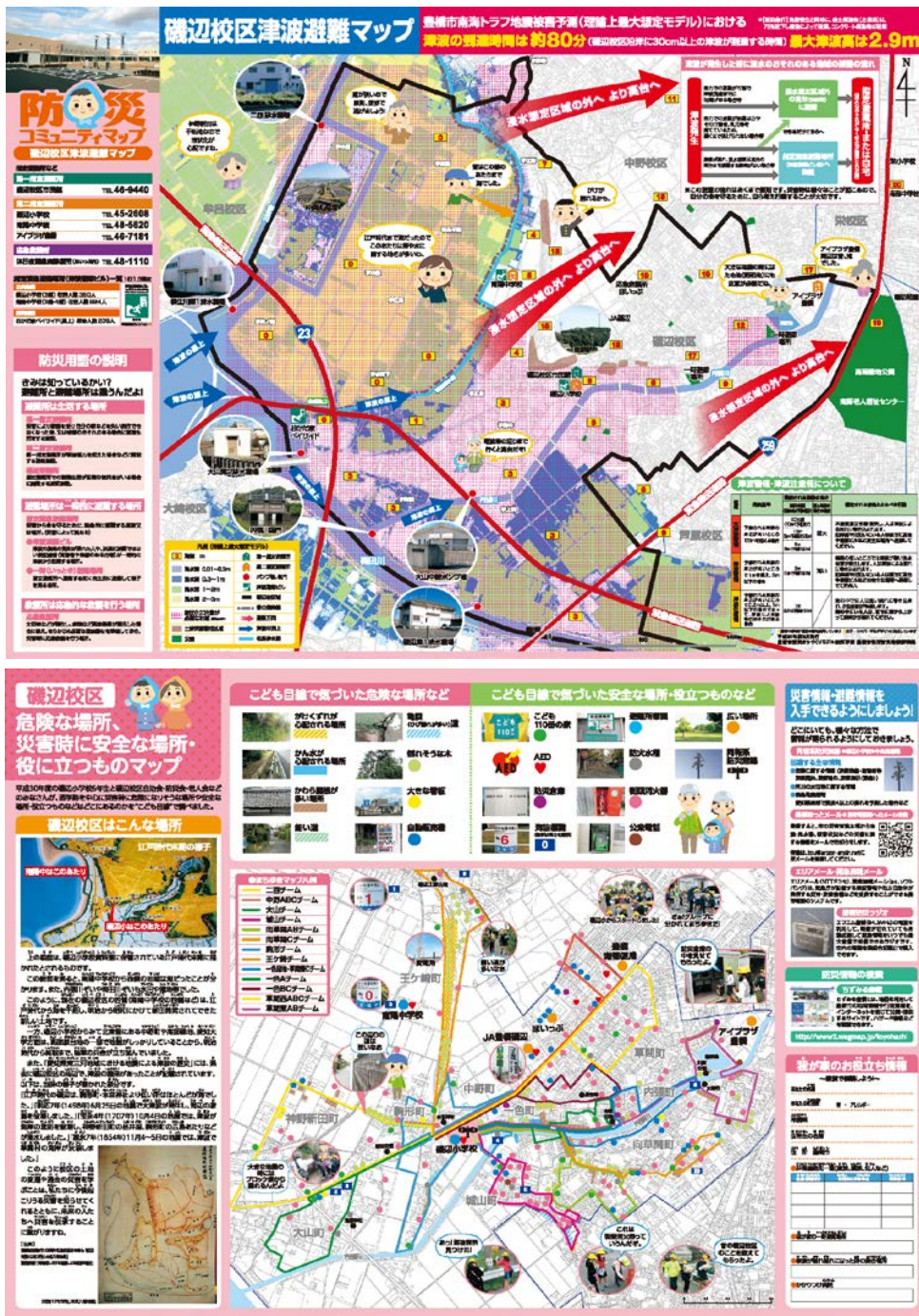
## 5 津波避難マップの見直し

道路の建設や宅地化など、地域の土地利用は日々変化し、またハード面の防災対策が講じられた場合は、その地域の特性は大きく変化することが想定されます。あわせて、その地域に居住する住民も変化していくため、津波避難マップも定期的又は必要に応じて見直しが必要です。毎年どの時期に見直しを実施するのか、見直しのための体制を整備しておくことも重要です。

※各地域における津波避難マップの作成の詳細については別冊『津波避難マップ作成の手引き』を参考にしてください。

# 豊橋市における津波避難マップ作成の事例

## 磯辺校区防災コミュニティマップ（津波避難マップ）



### 概要

平成30年度防災まちづくりモデル校区事業の一環として磯辺校区で津波避難マップを作成しました。

### 特徴

磯辺校区における津波避難マップは、津波の遡上方向や避難する方向を明記することで、正しい避難行動がとれるように作成されています。また、通学路を中心に災害時に危険になりそうな場所や安全な場所等、子ども目線で調べた結果を記載しています。